



令和8年1月29日（木）に徳島県つるぎ町就業改善センターにおいて、豪雨による同時多発的な土砂災害を想定した合同訓練を実施しました。つるぎ町、徳島県、四国地方整備局の関係機関をはじめ多数の機関が参加し、訓練を通じて土砂災害の発生前後でとるべき対応や連携の内容を相互に確認しました。



平澤事務所長



兼西つるぎ町長



【訓練の目的】

気候変動による水災害の激甚化・頻発化や、南海トラフ地震などの自然災害リスクに備え、つるぎ町、徳島県、国等の関係機関が、各機関の対応状況や共有すべき情報とその流れを確認し地域防災力の向上を図る。

【参加機関】

四国地方整備局、四国山地砂防事務所、徳島河川国道事務所、徳島県、徳島県西部総合県民局、つるぎ町、美馬警察署、美馬西部消防組合消防本部 消防団、自主防災組織連絡協議会、社会福祉協議会 要配慮者利用施設管理者、四国山地砂防ボランティア協会、徳島県砂防ボランティア協会、徳島地方気象台 ほか（参加者 約100名）

災害の進行に合わせた3つのステージを設定し、質問と回答を繰り返しながら各ステージにおいてとるべき対応を検討する学習型の訓練を実施しました。参加者は各種法令や計画、マニュアル等に基づき質問に回答することで自らの機関の対応や役割を確認するとともに、他機関の回答を聞くことで災害時の情報共有の流れや連携手段について理解を深めました。

1. 情報収集・体制確立ステージ（豪雨に備えた情報収集、体制構築）
2. 災害発生・初動対応ステージ（災害の状況把握、情報共有）
3. 大規模土砂災害詳細対応ステージ（河道閉塞や地すべりの緊急調査など）

【訓練参加者の感想】

- ・各機関の災害時の動きを順に追って訓練が進んだのでわかりやすかった(つるぎ町管理防災課)
- ・訓練を重ねることで災害時の対応スキルが向上すると感じた(つるぎ町住民課)
- ・実施経験のない緊急調査や緊急情報の流れを確認できたことが有意義だった(徳島県)
- ・消防団は地域を誰よりも知っているので地域からの要望があればできる限り対応したい(消防団)
- ・県から得た情報をどう組織内で伝達するか見直していきたい(徳島県砂防ボランティア協会)



想定した河道閉塞のイメージ。災害の一報の後、国が行う緊急調査や土砂災害緊急情報が通知されるまでの流れを確認した。

つるぎ町内で河道閉塞（1箇所）、地すべり（1箇所）、がけ崩れ（4箇所）、土石流（4箇所）、集落の孤立（1箇所）が同時多発的に発生した状況を想定して訓練を行った。



多数の関係機関が集まった訓練会場の様子